

第11回 市長対談

より良い地域医療を目指して



三重大学大学院医学系研究科家庭医療学教授

竹村 洋典さん

津市長前葉 泰幸

10月21日、三重大学大学院医学系研究科家庭医療学・医学部附属病院総合診療科の竹村洋典教授を前葉泰幸市長が訪ね、津地域医療学講座とこれからの地域医療の目指す姿について、三重県立一志病院でお話を伺いました。

市長 三重大学には平成24年9月に津地域医療学講座が設置されました。津市からこの講座に3年間で約1億円を寄附し、三重大学から3人の医師が一志病院に派遣され、地域医療学の研究や教育、地域の医療体制の確立を図っています。これまでの取り組みをお聞かせください。

竹村 地域の皆さんの健康相談の場としての健康教室をはじめ、三重大学医学部生の家庭医療学の臨床実習や研修医の研修を行う

など、全国的にも珍しい取り組みを行ってきました。また、三重大学の医師による診療も行っていますので、今まで以上に地域の医療は充実していると思います。

市長 お話にありました家庭医療というのは、どのようなものですか。

竹村 地域のニーズに応えられるような幅広い医療のことで、これに相当する総合診療専門医を、今年4月に厚生労働省が初めて認めました。

市長 総合診療専門医ということは、全般的な医療ということですか。

竹村 そのような機能も含まれます。性別や年齢、診療科目にとらわれず、さまざまな診療を行います。また、本人は健康だと思っても、実は病気を持っている場合がありますので、病院内から地域へ出て在宅医療や健康教室を行うなど、幅広いケアにも取り組んでいます。

